

令和5年度全国学力・学習状況調査 三郷市の調査結果分析と今後の方策例

主な成果（○）と課題（▲） 全国差：全国平均正答率との差

小 学 校 国 語
全体の結果（正答数分布グラフ等からの分析）
○平均正答率は、72.0％である。 ○平均正答数は、10.1問/14問であり、全国を上回る。※全国9.4問/14問 ○市の平均正答率は、全国差+4.8ポイントである。
学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式別結果
○学習指導要領の内容「思考力、判断力、表現力等」「A 話すこと・聞くこと」では、全国差+8.3ポイントである。 ○評価の観点「思考・判断・表現」では、全国差+6.9ポイントである。 ○問題形式「記述式」では、全国差+8.6ポイントである。
問題別結果（正答率、無回答率からの分析）
○3―二「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」では、全国差+10.8％である。 ○2―四「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」では、全国差+9.6ポイントである。 ○3―一（1）、（2）「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこととの中心を捉える」では、それぞれ全国差+6.8、+7.1ポイントである。 ○1―二「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」では、全国差+5.6ポイントである。 ○市の平均無回答率は1.5％であり、全国の平均無回答率4.8％を下回る。
今後の方策例（※3―三を例に） 「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる」 令和5年度 全国学力・学習状況調査報告書（国立教育政策研究所）より
日常よく使われる敬語を理解し使い慣れる ○ 相手と自分との関係を意識しながら、尊敬語や謙譲語などの敬語について理解することが重要である。 本設問では、谷さんは学習を振り返り、インタビューをするときの適切な敬語の使い方についてノートにまとめている。ここでは、尊敬語と謙譲語について理解していることが求められる。 学習指導に当たっては、日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにすることが大切である。日常生活の実際の場面を通して、尊敬語と謙譲語について理解できるように指導すると効果的である。また、「おっしゃる」や「申す」のように特別な言葉を使った言い方があることや、「お（ご）ーになる」や「お（ご）ーする」のような言い方があることなどを理解できるようにすることも大切である。本設問のように、振り返りの場面で敬語が使えていたかどうかを確かめるなど、言葉遣いについて確認する活動を学習の中に取り入れることも考えられる。